共同運営部門：薬剤管理センター

＜スタッフ紹介＞

役　　職	スタッフ名
センター長 兼診療局長兼産婦人科部長 兼周産期センター産科医療センター長 兼医療安全管理室長 兼国際診療支援センター長	荻田　和秀
副センター長 兼薬剤部門長	深津　祥央

＜関連部署＞

部署名	部署名
薬剤部門	診療局
検査部門	看護局
医療マネジメント課	

＜特色と概要＞

薬剤部門と他部門が協調し、病院全体の薬剤管理を含め、薬剤関連業務を向上するために活動している。

毎月開催する薬剤管理センター運営委員会で院内における薬剤関連の課題を抽出し検討している。

＜実績＞

・**「院外処方箋における問い合わせ簡素化プロトコル」の運用拡大**：調剤上の形式的な変更（銘柄変更・剤型変更など）に伴う院外薬局から処方医への問い合わせを不要とする項目を拡充するとともに、参加薬局数を大幅に増やすことで、医師の負担軽減ならびに医薬品供給不安定状況への対策を進めた。

・**麻薬管理マニュアルの改訂**：インシデント等を受けて、病棟で準備した麻薬を他部署（内視鏡室等）で使用する際のダブルチェックは転棟時の運用に準じる旨や入院病棟で患者本人に麻薬を管理していただく場合の確認事項を追記した。

・**「EICUにおけるストレス潰瘍予防（SUP）薬の適正化プロトコル」運用開始**：薬剤師と医師が協働して実施する。

・**病棟から薬剤部門への再分包（一包化）依頼の対応ルールを整理**：リスク管理の観点から、手作業での対応を減らし、一包化機械での分包にするため、院内で処方された医薬品の再分包は、オーダーによる対応を基本とした。

・**周術期の休薬・再開に係るインシデント事例の検討**：2024年度・2025年度の事例から、休薬対象薬の抽出、職種間の情報伝達、再開忘れの防止など、薬剤師の業務を中心に振り返り、エラーの再発防止策を検討した。医師の指示、患者からの情報収集、患者サポートセンター・看護師から患者への説明・連絡におけるエラーについても意見交換し、検討内容を医療安全管理室と協議した。

・**外来院外処方オーダー時の保険薬局向けコメントを追加**：処方箋上の指示を介して医師が保険薬局との連携を取りやすくするため、「服薬フォローアップの依頼」、「訪問薬剤管理指導指示」を選択肢に追加した。

・**次期電子カルテへの要望事項提出**：薬剤業務関係の要望事項をまとめて、情報システム・セキュリティ委員会に提出した。

・**がん化学療法患者の増加に伴う薬剤部門の業務体制拡充の必要性検討**：外来、入院ともに件数が増えており、抗がん薬調製業務が日常的にキャパシティを超え、安全確保が難しくなっている。また、レジメン監査の強化や患者指導の充実など医師・看護師からの要望も多い。安全キャビネットの増設、薬剤師の増員を引き続き要望する。

・**注射薬搬送カートの老朽化・破損**：蓋の破損、蓋を設置するレールの金属が外れて突出していることで、けがをするスタッフが出ている。修理対応・新規購入の手続きを進める。

・**患者サポートセンターにおける入院前の休薬管理について耳鼻咽喉科・頭頸部外科の対応を開始**

・**健康食品・サプリメントおよび市販薬の手術前中止のルールを作成**：薬剤部門・医療安全管理室・患者サポートセンター・麻酔科等の意見を反映して、ルールと患者向け案内を作成した。

・**散薬の単位「mg【原薬量】」をお薬手帳シールやお薬説明書にも表示するためのシステム改修**：散薬処方が【製剤量】か【原薬量】かを明確にして伝達し、エラーを防ぐために改修を進めることとした。

・**期限切れ薬品の廃棄、破損・調製後の処方変更等による薬剤廃棄の減少対策**：特に高額薬の破損、医師の指示変更連絡遅れを減らすべく、関係委員会とも協力して病棟・診療科への注意喚起を行った。

＜今年度の成果と来年度への抱負＞

各部署の意見を吸い上げて、薬剤師として介入する専門業務を増やし病院全体にとって利便性のある業務改革ができた。人員や機器設備の課題解決を図りつつ、来年度も業務改善の取り組みを継続していきたい。